

1、那須岳（茶臼岳 標高1,915m） 常時観測火山

那須火山は関東平野北端の関谷断層に沿って南北に配列する成層火山群。活火山としての那須岳はその1峰で別名、茶臼岳。茶臼岳火山は、約1.6万年前から活動を開始し、溶岩・火砕物を大部分は東山麓に、一部は西側の那珂川上流部に堆積させている。茶臼岳は溶岩ドームの中央火口(直径100m)の内外には噴気孔が多いが、特に西斜面の二つの爆裂火口内では活発な噴気活動が続いている。有史後の噴火はすべて爆発型で泥流を生じやすい。

最近の火山活動では1408年から1410年に、降下火砕物・火砕流が噴出し、さらに茶臼岳溶岩ドームが形成された。この噴火の犠牲者は180余名。この後、小規模な水蒸気爆発が繰り返されている。近年に那須岳付近地域では群発性の地震活動の発生があるが、火山活動との関係は認められていない。

周辺自治体としては栃木県では那須塩原市・那須町、福島県では下郷町・西郷村。

<「日本活火山総覧(第4版) 平成25年3月 気象庁編」から引用>



那須岳 南西側から 2012年9月10日 気象庁撮影

2、日光白根山（白根山 標高2,578m） 常時観測火山

栃木・群馬県境に分布する直径約 1000m、高さ約300m の溶岩ドームといくつかの厚い溶岩流からなる火山である。西方にのびる厚い溶岩流の上に主峰・白根山(奥白根)などの溶岩ドームが形成されている。有史後の噴火は、奥白根からの水蒸気爆発などの活動で、約6000 年前以降に、周辺に堆積物を残すような噴火が少なくとも6 回以上発生しているが、噴気地域は現存しない。日光白根の南方約10～20km の一帯で、1993 年7 月から1995 年2 月頃まで、微小地震活動が活発化した。

周辺自治体としては栃木県では日光市、群馬県では沼田市・片品村。

<「日本活火山総覧(第4版) 平成25年3月 気象庁編」から引用>



日光白根山全景 南東側から 2010 年 11 月 24 日 気象庁撮影

3、高原山（釈迦ヶ岳 標高1,795m）

栃木県北部に位置し、噴出物が東西、南北とも約15km に分布する成層火山である。活動は約50 万年前には開始していて、約10 万年前頃にはおもな活動を終止させた。最近1 万年間の火山活動としては、約6500 年前に北麓での水蒸気爆発と降灰(高原 - 上ノ原テフラ)の活動があって、潜在溶岩ドーム(富士山)の形成があったと推定されている。歴史時代での噴火記録はないが、富士山近くの新湯では噴気活動がある。また、1979 年2月及び1981～1982 年には地震が群発した。

周辺自治体としては矢板市・那須塩原市・日光市・塩谷町。

<「日本活火山総覧(第4版) 平成25年3月 気象庁編」から引用>



高原山全景 南東側から 2011 年 12 月15 日 気象庁撮影

4、男体山（男体山 2,486m）

日光火山群に属し、基底径約6km、基底からの比高約1200mのほぼ円錐状をした成層火山。山頂に、直径約1kmの火口をもつ。最新の噴火は約7000年前のマグマ水蒸気噴火である。現在、噴気活動は認められない。

周辺自治体としては日光市。

<「日本活火山総覧(第4版)追補版 気象庁編」から引用>



男体山全景 南側から 2008年9月9日 及川 輝樹氏 撮影